

来信 返信

反響を追う

畳の需要は、住宅の洋風化などで減少傾向が続いている。しかし、最近では、住宅メーカーが畳特有の機能や弾力性に着目し、子育て世帯向けに畳スペースを確保した住宅を販売するなど、その良さが見直されてきている。

熊本県い業生産販売振興協会の調査によると、畳表の国内需要は年々減少し、2008年は推計1650万畳で、調査を始めた1993年の4500万畳の約3分の1にまで落ち込んだ。イグサの生産量も減少した。

住宅での畳活用



「子育て世代」から注目

今年の作付面積は899㌦で、10年前の3分の1に満たない。

背景には、和室の居間より洋間が好まれる生活の変化がある。「大都市のマンションは部屋数が多くないと和室を設けるのが難しい」「高齢者がベッドを使うため、和室を洋室に変えることも多い」(大手不動産会社)などの事情もあるようだ。イグサは、バニラの香り成分のバニリンが含まれ、リラック

今年度の作付面積は899㌦で、10年前の3分の1に満たない。背景には、和室の居間より洋間が好まれる生活の変化がある。「大都市のマンションは部屋数が多くないと和室を設けるのが難しい」「高齢者がベッドを使うため、和室を洋室に変えることも多い」(大手不動産会社)などの事情もあるようだ。イグサは、バニラの香り成分のバニリンが含まれ、リラックス効果がされるとされる。新築住宅などで起きる頭痛などシックハウス症候群の原因物質を吸着する機能もある。このため、畳を活用した子育て世代向けの住宅が注目を集め、読者からも「畳を張り替えて良さを実感した」という投書が届いた。

大和ハウス工業は09年、子供部屋を畳にした戸建て住宅の販売を始めた。「畳の子ども部屋は安全だし、布団を使えば、部屋を片付ける習慣が身につく」とPRする。積水ハウスも07年から、リビングの一部に床より高い畳敷きのスペースを設けた

住宅を販売。「段差で親子の視線が近付くし、台所からもよく見える」という。正方形の縁なし畳Ⅱ写真、宇都宮市の石川畳店提供Ⅱなどで、「和の空間」を提供する業者も増えてきた。

一方、畳職人や生産者も少なくなっているため、全国畳産業振興会は09年度から、畳をPRしたり、張り替えなどの相談に応じたりする「畳ドクター」の認定を始めた。

北九州市立大学の森田洋准教授(生物生態工学)は「置き畳をリビングに敷くだけでも、畳の良さは生かせる。さまざまな工夫で、1300年の畳文化を続けてほしい」と話している。(世論調査部 出口太)